

社会奉仕功労

よこと すみこ
横戸 澄子 氏(左)
きくた かずお
菊田 和男 氏

エのもと ななえ
榎本 七重 氏(右)



長年に亘り、市内の小学校の通学路にて、生徒達の安全な登校ができるよう、見守り活動を行っている方々。生徒達への積極的な声掛けのみならず、生徒達の登校の様子を各小学校へ報告するなど、きめ細やかな対応で地域の安心安全に貢献している。

—活動を始められたきっかけは何ですか。

(横戸) 甲州街道沿いの狭い歩道をふざけ合って通学している小学校の生徒を見て、事故があったら危ないと思い、見守りをするようになりました。

(榎本) 近所の小学校の生徒が暗い顔して登校している姿を見て、これではいけないと思い、声掛けを行うようになりました。

—活動の頻度について教えてください。

(榎本) 基本的に毎日、所定の位置に立つて登校中の生徒に声掛けしながら見守りを行っています。荒天時は特に生徒に危険が生じる可能性があるので、必ず立つようにしています。月に1〜2回ある土曜日の学校公開日も立っています。

—何時から何時まで立っていますか。

(横戸) 午前7時半から8時15分頃までです。

(榎本) 午前7時35分から8時10分頃までです。

—活動の詳細について教えてください。

(榎本) 生徒ひとりひとりの顔と名前を覚えていたので、生徒が通ると「〇〇ちゃん、おはよう」といったふうに声掛けをしています。ほとんどの生徒が「おはよう」と返してくれますが、まれに返事をしない子等がいると呼び掛けて注意します。

(横戸) いつも明るい顔で登校する生徒が、暗い顔をして登校している姿を見ると、「なにかあったの?」と声掛けすることもあります。もちろん、その子の友達が近くにいるときは、声掛けを控える等の配慮をしながら、具体的に指導の必要がある生徒や変化が見受けられる生徒がいるときは、逐次学校に報告し、調査や対応を依頼しています。

—活動を通じて嬉しかったことは何ですか。

(榎本) 何より生徒達の成長を見られることが喜びです。夏休み明けの生徒達の姿を見ると、こんなに大きくなったの!と感じます。もししたら親御さんよりも成長がわかる立場かもしれないですね。

—最後に一言お願いいたします。

(横戸) 同じ見守り活動の功績で今年度市民表彰を受賞された菊田和男氏は、自身で見守り活動をしなが、国立第七小学校の見守り活動団体の発足にも尽力されました。教育委員会や近隣住民の協力もあり、国立第七小学校の通学路は高い安全性を確立できています。

—最近の小学生を取り巻く環境について、感じることありますか。

(榎本) 家庭内でのコミュニケーションが希薄化しているのではないかと感じます。最近では生徒達から声を掛けてくる人が多いですが、そのほとんどは、「今日〇〇くんと遊びに行ってくる」というような、些細な報告です。親との会話があまりない生徒達が、親の代わりに私達に話しかけているように感じるので。

(横戸) また、「子どもの貧困」を実感することもあります。ある生徒が、「今朝ごはん、あんぱんと牛乳を出してもらった!」と嬉しそうに報告してくれたことがあります。少し気になって学校に調査してもらったら、どうやら普段は朝ごはんを用意してもらっていないらしいことがわかりました。金銭的に余裕がない事情だけでなく、私的な理由等で親が子どものご飯を作らない場合も、「子どもの貧困」状態を生み出すのです。

社会奉仕功労受賞

きくた かずお

菊田 和男 氏

国立第七小学校見守り会の発足について

現在、国立市第七小学校の見守り会の方々が約80名登録されています。そのうち毎朝30名以上の方々が生徒の通学路に立ち見守りを続けております。各自治会、老人会、主婦等々の地域のボランティアの方です。

校長・PTA会長等と一緒に各自治会の会合に参加し、見守り会発足の為の協力を説得してまいりました。

準備に約1年はかかりましたが、どうにか平成26年4月4日に第一回目の発足を国立市第七小学校で開催することができ、現在に至っております。

これには皆さんの多大なる協力があつたからだと思います。



▲写真は菊田氏より提供